

■Ver 3.0

- ・ SPARC M12に対応。
- ・ 本ツールの動作条件を変更。
 - Oracle VM Server for SPARC Software 3.5
 - Oracle Solaris 11.3
- ・ テンプレートパターン見直し。
- ・ その他、全体的に見直し。

■Ver 2.4

- ・ Oracle VM Server for SPARC 3.4に対応。
- ・ テンプレートパターン3のCPUをソケット指定に変更。

■Ver 2.3

- ・ Oracle VM Server for SPARC 3.2に対応。

■Ver 2.2

- ・ Oracle Solaris 11.2に対応。
- ・ バグを修正。

■Ver 2.1

- ・ テンプレートパターン4を追加 (for SPARC M10-4)。
 - I/Oドメインをサービドメインとして、仮想サービスを自動で設定。
 - ゲストドメインは複数環境の構築が可能。
- ・ 制御ドメイン以外のドメイン設定時も、コンフィグファイルの上書き処理を実施。

■Ver 2.0.1

- ・ Oracle VM Server for SPARC 3.1に対応。
- ・ テンプレートパターン3において、仮想スイッチサービスの (vsw) の設定が可能。
 - 全てのドメインの管理用ネットワーク (Private LAN) を仮想ネットワーク上で統合。

■Ver 2.0

- ・ テンプレートパターン3を追加 (for SPARC M10-4)
 - SPARC M10-4の特性を活かしたリソース配置を自動で設定。

■Ver 1.1

- ・ CPUコア設定時の“max-cores”パラメータの設定に対応。
- ・ 制御ドメインが遅延再構成状態 (Delayed Reconfiguration) のときに、本ツールの実行ができないように仕様を変更。
- ・ 物理NICが割り当てられたvswと紐づくvnetにのみ“linkprop”オプションの設定が可能。
- ・ ドメインに設定するメモリ容量を4MB単位に切り上げてドメインを作成。
- ・ ドメイン環境を初期化する機能を追加。
- ・ 制御ドメインの設定時、構成情報：factory-defaultが[current]状態のときのみ、ツールを実行可能。
- ・ 構成情報保存時、構成情報名の重複チェックを実施。
- ・ 仮想ディスクバックエンド選択時に、すでに他のドメインが使用している場合、[ドメイン名:Reserved]と表示。
- ・ 複数のvswを設定する場合、vswに割り当てる物理NICの重複チェックを実施。
- ・ I/Oドメインの仮想コンソールポートを5000に固定。